

PRESS RELEASE

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

報道機関 各位
(農業・児童福祉担当者)

公立大学法人 宮城大学 大和キャンパス事務局
企画・入試課 企画・広報グループ (担当: 山崎)
宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 TEL.022-377-8217

12/15 宮城大学坪沼農場・旗立農場でつくられた 新米 120kg を、仙台市こども食堂に寄付します

宮城大学食産業学群では、農畜水産物の「生産」から「加工」「流通」「サービス」、そして「消費」までをカバーし、食に関する課題を自然科学、社会科学両面の学びから解決する人材を育成しており、附属農場である「坪沼農場」では生産実習の一部として水稻栽培(播種、移植、収穫)を行い、また、学生のサークル活動の一環として、サークル「FARM ACT」の学生が太白キャンパス内にある「旗立農場」においても水稻栽培を行っています。

お米の生産についても深く学ぶ地域の大学として、新米がとれても価格が下がらず高止まりしている状況下において、将来の宮城・日本を担う子ども達へ少しでも貢献するため、坪沼農場での農場実習で生産した新米(2kg×50袋計100kg)と旗立農場でサークル「FARM ACT」の学生達が作った新米(1kg×20袋計20kg)を、仙台市のこども食堂へ寄付しますので、お知らせいたします。



開催概要

日時	2025 年 12 月 15 日 (月) 15:30 ~
場所	仙台市ボランティアセンター〒980-0011 (仙台市青葉区上杉 1 丁目 6-10 EARTH BLUE アースブルー 仙台勾当台ビル 6F)
内容	坪沼農場や旗立農場で生産したお米を、農場長の中村聡教授・学生 4 名が仙台市のこども食堂にお届けする予定です。お米は令和 7 年の新米(精米)「ひとめぼれ」で、坪沼農場産 2kg×50 袋(計 100kg / 一等米)、旗立農場産 1kg×20 袋(計 20kg)です。2,000 円×50 袋=10 万円相当(一等米)。2025 年 12 月上旬に精米したものです。

PRESS RELEASE



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

仙台市のこども食堂とは

こども食堂とは、地域の子どもたちに無料または低価格で食事を提供する場です。社会福祉法人仙台市社会福祉協議会が運営する仙台市のこども食堂は 71 件（青葉区 24 件、宮城野区 15 件、若林区 8 件、太白区 13 件、泉区 11 件／ 2025 年 12 月 2 日現在）。食事の提供のほか、地域交流や子どもの見守りの場としての役割もあります。



宮城大学坪沼農場とは

食産業学群の太白キャンパスから 8km ほど離れた坪沼地区にある附属農場であり、総面積は約 31.4ha あります。水田、畑、牧草地、ビニールハウス、牛舎、豚舎などの生産施設、講義室、厨房などの施設も有しています。坪沼農場では、宮城大学食産業学群の学生を対象とした生産実習の一部で水稻栽培（播種、移植、収穫）を行っている他、「宮城大学チアーズ農園」や「リビングこども大学」など次世代を担う子どもたちに向けた食・農の啓発活動も実施しています。生産したお米は、従来では大学祭（11 月）の時や学内、近隣の方に販売しており、SDGs も念頭に置き、持続可能な農産物生産に向けて、必要最小限の農薬の使用にとどめています。



宮城大学について

1997 年に宮城県立宮城大学として開学、2009 年に法人化し、学群・研究科合わせて約 1900 人の学生が在籍しています。「高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する」を大学の理念としており、地域社会の発展と社会イノベーションにとって重要な 3 つの専門領域、地域でのヒューマンケアに関わる看護学群、事業や地域社会、もの・ことをデザインし構築する事業構想学群、食材の生産から加工・供給に至る食システム全体を考えて食の未来を開拓する食産業学群を擁しています。



本リリースに関するお問い合わせ先

宮城大学事務局広報担当 山崎 / 電話：022-377-8217/ メール：kouhou@myu.ac.jp